



みなみいず 町議会だより

No. **50**号

2012年
平成24. 8. 1

発行／南伊豆町議会 編集／議会広報編集委員会 〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1 TEL0558(62)6240
E-mail: gikaij@town.minamiizu.shizuoka.jp



南伊豆町議会報告会

6月定例会を6月12日・6月13日の会期で開催しました。

- 主な内容 ● 6月定例会…………… 2
- 一般質問…………… 3～11
- 議会一口メモ、くろ潮…………… 12

平成24年度 一般会計・特別会計補正予算可決 (公共下水道事業)

総額7,069万6千円

一般会計	5,975万2千円
●農林水産業費	1,082万7千円
●観光費	1,872万6千円
●災害対策費	200万円
●土木費	1,626万4千円など
特別会計	1,094万4千円
●公共下水道事業	1,094万4千円

① 人事案件

- ▼南伊豆町固定資産評価審査委員会員の選任について
南伊豆町上賀茂612番地
渡邊修治氏
全員賛成で可決

② 条例及び 規約の制定・改正

- ▼南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例
全員賛成で可決
- ▼南伊豆町付属機関設置条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決
- ▼外国人登録法の廃止に伴う関係条例の整理に関する条例制定について
全員賛成で可決
- ▼南伊豆町国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について
賛成9反対1で可決
- ▼静岡県市町総合事務組合規約の一部を変更する規約制定について
全員賛成で可決

③ 報告事項について

- ▼専決処分の報告及びその承認を求めることについて
・南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定について
全員賛成で可決
- ・南伊豆町一般会計補正予算(第1号)
全員賛成で可決
- ・事故繰越し繰越計算書の報告について

④ 指定金融機関の 指定について

- ▼伊豆太陽農協
全員賛成で可決



● 一般質問

町長に聞きました



宮田和彦 議員

弓ヶ浜砂浜減少について

質問 弓ヶ浜は町のシンボルだと言っているが砂浜の維持や美観を守る為の具体的な行動は。

町長 地元の区が全面的に協力して取り組んでくれています。台風時には県と協力し、町としても予算を充てながら対応しています。

質問 下田土木事務所所長宛に提出した弓ヶ浜砂浜減少の要望書の進捗状況は。

町長 県では年に一度専門的知識を持つ独立行政法人港湾技術研究所へ委託し、波浪等による浸食状況の確認と汀線(海面と陸地の境)の調査事業に弓ヶ浜海岸を要望して現状把握と今後の対応へのアドバイスを受ける予定になっています。今後も県に対し働きかけをしていきます。

防災対策について

質問 南海トラフ巨大地震

による震度分布と津波高について内閣府発表後の町の危機管理と防災対策は。

町長 津波浸水域、県の第四次被害想定及び県地域防災計画との整合性を図りながら町の地域防災計画の全面的な見直しを実施していきたいと考えています。

質問 登下校中の地震・津波対策は。

教育長 関係機関等と連携を図りながら、地域を含めた総合的な取り組みを考えています。

質問 こども園・南崎保育所の幼児、小中学校の児童生徒職員の水・食料・毛布等の備蓄状況は。

教育委員会事務局長 こども園・南崎保育所には三日程度の食糧・毛布はあるが、学校には食料等の備蓄はありません。今後、充実に努めたいと考えています。

質問 配布された海拔表示図だが、紙質は大変良い、

しかし、これは住民側に立つて作成されたものではない、行政側の自己満足だ、税金の無駄使いだと言う声があった。それより、住民や観光客に一目で分かる様に電柱等に海拔表示看板や避難所誘導看板を設置してもらいたい。

防災室長 電柱への海拔表示看板については町内五百ヶ所に七月末を目途に完了する予定です。

観光産業について

質問 人の安全と安心を組み合わせる考えなければならぬ中、観光産業を、一年を通して今後の様に進めていくのか。

町長 今後、新たな観光資源を模索し関係機関の協力を得ながら進めたいと思います。

トイレ

建設について

質問 日野の出会い橋、湊の逢ヶ浜、伊浜の長者ヶ原

にトイレの建設は。

町長 県と協議をしながらトイレ整備をしたいと思っています。

質問 今年の仮設トイレは。産業観光課長 予定しています。

中央公民館 跡地について

質問 児童公園等を作る計画は。

町長 跡地利用と言う面で考えたいと思います。

社会福祉 協議会について

質問 社会福祉協議会事務所の建設は。

健康福祉課長 中長期的な計画の中で考えています。

※小中学校の地熱利用、太陽光発電・農林水産業商工業について質問し答弁があった。



渡 邊 嘉 郎 議員

共立病院下田 メディカルセンターについて

質問 開院約一ヶ月経過がたち、現在の患者さんの動向、経営の内容がわかりましたら、教えて下さい。

町長 診療科目は内科と整形外科、小児科など十五科を要望しております。そして医師は常勤医師が十名、非常勤医師が十九名そして看護師六十五名で高機能の医療機器を備えた、賀茂地域の中核病院として開院したところであります。利用状況は五月一日以降三十一日現在で外来が三、八九二

人で入院が六十三名となっております。湊病院からの移行は順調に行われたものと理解しております。今後は充実したスタッフ、医療機器による地域医療の拠点として、二次救急や高齢者医療等に貢献してくれるものと大いに期待しております。さらに五月二日に開院しました当町のなぎさ園の隣接地に診療所も常勤医師一名、非常勤一名、常勤看護師二名で、内科の診療を開始し利用状況は五月三十一日現在で、外来一八

二名となっており、本院下田メディカルセンターと連携をしながら、きめ細かい地域医療を担ってもらえるものと考えております。

質問 本当に人気のいい病院としてスタートができた、私も感謝する一人でございますが、一方で患者が多すぎて患者さんの待ち時間が長いと言う苦情、患者さんに対しての受付の対応が悪いとか聞きますが、今後組合側と病院側を話しをして、患者さん第一でありますので、サービスの行き届いた評判の良い病院をめざすよう努力するよう首長会議の時にでも提案していただきたいと思っています。次に通院バスの料金補助の件でございますが、患者のバス代の半額助成は理解できますが、一人でいけない患者さんの付き添いの人のバス代助成また、今後他の病院では無料バスが走っていますので無料病院バス運行を考えてほしいのですが町長の考え方をお聞かせしたい。

町長 一行政だけの問題ではないので今後一市五町と病院側とで話しあい検討していきたいと思っています。



経済対策、町内業者への発注状況を聞きたい。

総務課長 行政報告の通り建設を初め委託等、どうしても町内業者と言う訳にはいかない部分もありますがご理解していただきたいと思います。

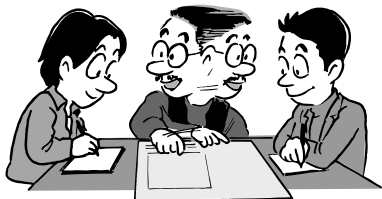
町長 早期発注を目指し、極力町内を優先した発注を念頭におき景気対策の意味からも進めていく所存です。

質問 新年度予算を議会で

も可決したわけですので町内業者への早期発注をお願いし次の質問に移ります。

質問 観光対策ですけど観光の情報化社会を迎えて光ファイバーとの連携及び企業誘致ですけど以前の方針は総務省の事業で当町でも検討して来ましたが、今後検討して行く考え方はあるのかお聞きしたい。

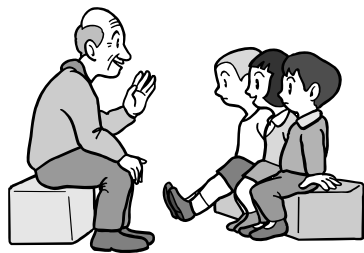
町長 数年前当町でも具体的に検討しましたが維持管理の問題やら利用者数との問題の難しさがあって断念したと言う経緯があります。が、今後いろいろの面で状況が変ってきてますので、国の政策を待ちながら状況を見ながら検討して行きたい。



ら関わってもらえますか。

教育長 教育委員会はこれを伝統芸能、あるいは文化財と見た場合、保存継承、伝えていく育成の面があり、その面からできる限りの支援をしていく考えです。

質問 町長・企画調整課と教育委員会では答弁の内容が違います。これは本当に当局側が地域の活性化を願っているのか疑問です。しかし、この平行線は変わらないので、この質問は次回からしません。個人的に動いてみます。その時には協力いただけるという答弁でしたので、その時にはお願いに行きます。教育委員会では、これを伝統文化の保存と捉えていただき、今後は考慮願う。



3年11月28日、10号に「ふるさとの伝統芸能・文化等の継承及び保存育成を図るための活動及び施設等の整備」とある。宗教的な観点ではなく、地域交流の場、観光面で有効という解釈はできないか。人口減少により、いずれ継続できない祭も出てくる。サミット開催により、何らかの解決策も出てくると思うが。

企画調整課長 今後、祭典運営が困難になる懸念はしています。地域住民のコミュニティ組織が自発的、自主的な総意に基づいて伝統芸能・文化等の継承や、保存・育成を図るための活動等については、南伊豆町コミュニティづくり推進事業で支援の考えはあります。

質問 前回までの祭サミットに対しての回答は、宗教的なイメージがあるということ。で質問をかわされている。だとしたら、役場職員は地元の祭に出ませんか。子供の頃から祭に関わっているが、祭に宗教的なことを感じたことはない。祭サ

ミットの開催自体が駄目だという意味が理解できないので質問している。

企画調整課長 公金支出という面で、宗教上の組織には法的な制約があり、慎重に対応していかなければなりません。例大祭で行っているケース、また祭の組織が氏子というような組織体があり、そうした活動に対しての支援は慎重にならざるを得ないので。議員が自主的には行う活動に関しては、コミュニティの補助事業とかの制度を利用する財政支援の受け皿は利用しています。その辺は協議・検討して活用していただければと考えています。自主的な活動に対しての批判はございません。

質問 今の答弁ですと、自主的な活動でやってほしいということ。と、宗教の解釈が違ふ印象です。教育長にお聞きします。これが伝統芸能サミットということなら理解が得られますか。伝統芸能を守っていく意味なら当局で人集めのところか

町内事業者の 販路拡大を目的としたネット ショッピングモール



加 畑 毅 議員

※質問し、答弁があった

南伊豆町きらりと光る まちづくり事業支援

※質問し、答弁があった

ふるさとの伝統芸能・文化等の 継承及び保存のための「祭 サミット」開催

質問 南伊豆町コミュニティづくり推進事業助成要綱平成



長田美喜彦 議員

観光問題

質問 去年は全国的に12%減少ということで、町も影響が大分ありました。町で補助金を出しているイベントはあるのか、補助金以外のイベントはあるのか。

産業観光課長 町が補助金として支援しているイベントは、観光協会が実施している自然まつり一件だけ、観光宣伝事業として、本年度17事業の委託契約イベントを締結して誘客に結びつけるよう準備を進めている、今後も事業が観光業の活性

化につながるよう努めています。

質問 あいあい岬、NPOが今後管理とのこと、具体的にどのような管理するのか。

町長 我が町石廊崎の先端で、風光明媚ということ、ジオパーク構想の中でも重要な位置づけ。ジオパークビクターセンターとして売店を活用し、誘客の対策としても取り組んでいく。

質問 ゆうすげ公園の管理

は、もう少し管理に力を入れてもらいたい。

産業観光課長 当時と大分変わっている。管理等も前向きに検討して行く。

防災問題

質問 安心、安全のまりづくりという点で、今後どのような取り組みをしていくのか。

町長 総務課内に防災室を新設し、その中で平成24年度事業で、電柱への海拔表示板、海岸地区への海拔表示板の設置、各家庭への海拔表示のシールの配布、助成制度をフルに適用しながら、人命を守ることを最優先に、地震に強いまちづくりを着実に進めていく。

質問 町民に防災意識の向上をどのように町として考えているのか。

町長 危機感の共有ということ、個々の防災意識を高める取り組みが不可欠、防

災訓練を初めとする各種ソフト面、避難路、避難地整備、海拔表示板など、ハード面からのサポート体制、地域と密着した防災対策の強化に取り組んでいく。

質問 学校ですと、避難訓練を校内ではやっていると思うが、登、下校時の訓練等はどのようなか。

教育長 日ごろから避難訓練を初めとした防災教育をやっている。現場での実際見た確認も必要。対応を定めた学校防災マニュアルがある。現在、見直しを一度検討している。

医療対策

質問 通院のバス補助金、役場まで行かないと、手続きが出来ない、良い方法は。

健康福祉課長 必ずしも本人ではなくても、親族等でも代理ということで申請はできます。それに対応する。

質問 みなとクリニックの

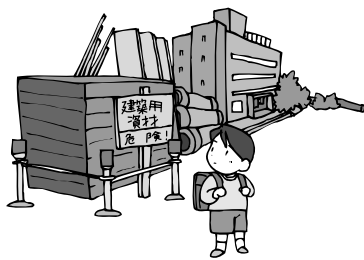
現状、診療時間はどのようなになっているか。

防災室長 8時半からの受付をして、10時から12時まで、月曜日から土曜日まで。

病院跡地問題

質問 町長は管理者から抜けましたが、積極的に跡地利用にも、かわつていたきたい。現在建っている病院、解体を早くとの声があるが。

町長 跡地利用と合わせて解体を考えていきたい。いろいろな面で今後心配されますので、やはり跡地利用委員会の中で今後検討していただきたい。



行政を担う者の目標の一つである。



郷土芸能保護・育成の考え・具体策は

質問 国や県では郷土芸能等を再認識し、積極的に参加を奨励している。本町でも、郷土の日等で小・中学校の子供達を参加させ、総合学習でも郷土を学ばせている。少子高齢化等で後継者問題等、維持・存続が困難となって来ている。早急に保護・育成を図るべきではないか。

教育長 各集落に伝えられている郷土芸能等の維持は非常に厳しい状況になっている。優れた郷土芸能等については、文化財保護法等に基づき、保護活用してい

南伊豆町の郷土芸能の利活用について

質問 町内各地に残されている郷土芸能等は観光資源として有効ではないのか。それらの活用の考え、認識は。

町長 郷土芸能等を観光資源として利活用することは有効である。県、他団体と連携し、手法、支援を検討し、広義に解釈し、助成・協力をしていきたい。

副町長 総合計画にも観光資源として有効活用を検討すると謳っている。桜まつりやフェスタ南伊豆で披露等、手法は考えられる。

町内の郷土芸能の積極的な情報発信について

質問 民間事業者が伊豆地区の郷土芸能等を掘り起こ

し発信する。また本町の郷土芸能をインターネットで全世界に発信する動きがある。観光資源として有効と考え、積極的に関わるべきではないか。子浦、妻良には修学旅行の生徒が多く来町している。子浦、妻良のものを修学旅行の観光資源として発信は。

産業観光課長 ある民間事業者から話は来ている。新たな観光資源として活用できればと考えている。各地区の区長と相談、観光協会等と前向きに協議したい。



※災害対策については、一条く加増野線の位置付けを中心に質問し、町長から現在までの県への陳情・勉強会、関係する下田市長と協議、働きかけをしているとの答弁があった。

質問 子浦の三番叟、加畑神社の籠獅子や妻良の盆踊り等、町内には貴重な郷土芸能等が多数残っている。本町における郷土芸能等に対する認識は。

町長 本町には色々な郷土芸能があり、貴重な文化財と認識している。後継者問題等で継承が難しくなっているが、貴重な文化財的なものは行政として最大限取り組み、継承・保存してい

郷土芸能とまちづくりについて 南伊豆町の郷土芸能の現状と認識について



谷 正 議員

たい。

教育長 地域に残された貴重な文化財を大切に守り、育て、後世に伝え、地域振興につなげることが責務である。高齢化を含め後継者問題等があるが、次世代を担う子供達を育成し、地域との交流、文化財に直接触れることで豊かな人間形成を培い、故郷に誇りと自信を持てる子供を育て、郷土の発展に繋げることが教育



吉川 映治 議員

石廊崎区

周辺施設等の整備について

質問 今回のグリーンワー
カー事業の成果をどの様に
評価するか。

町長 当該事業に率先して
取り組んで下さった皆様に、
感謝と敬意を表します。

質問 次の同事業を予定し
ているので、町当局からの
協力を仰ぎたいが。

町民課長 年に一度行っ
ているクリーン作戦・河川海
岸愛護月間と同様な位置づ
けで対応して参ります。

質問 白水城史跡のある城
山周辺の山道、景観整備は
何故県の直轄事業なのか。

産業観光課長 この地域は
自然公園法、文化財保護法
に保護されており、開発整
備するには、町単独では難
しいからです。今後は、県
の指導を仰ぎながら、前向
きに検討して参ります。

質問 「何の策なしでのジャ
ングルパーク跡地取得は、
如何なものか。」という意見

があるが。

町長 今、非公開での和解
協議中ではありますが、地元
町民の皆様全てを明らかに
する時が来ると思ってお
ります。

質問 地元、町民の皆様の
石廊崎問題についての一番
知りたい事は、当問題が解
決に向けて、どこまで進展
しているのかであるが。

町長 各議員には、和解交
渉がどこまで進展している
のかを説明しておりますの
で、それでご理解してい
ただきたいです。

介護保険給付費抑 制に向けて、社会 福祉協議会の役割 について

質問 過去四年間、要介護
四、要介護五の認定者数は、
程々同数であるが。

健康福祉課長 介護度は、
介護認定審査会で認定され
ます。介護度の人数を意図
的に抑える事はありません。

質問 今、町が直面してい
る介護保険の現状、実態並
びに見通しについては。

町長 同保険制度が周知さ
れてきた。及び介護事業所
等の基盤整備が進んだ結果
と思います。又、高齢者世
帯・一人暮らしが増加した
事も影響していると思いま
す。

健康福祉課長 四月一日現
在で高齢者世帯が五百十九
世帯、一人暮らしが七百二
十九世帯に増えた結果と考
えます。

質問 町内で行っている介
護給付費抑制のためのサー
クル活動等以外に考えてい
る方策はあるか。

健康福祉課長 今の所、特
に施策等はありません。

質問 今のサークル活動等
を一つの施設で総合的に管
理、運営していく必要があ
り、当機能を備えた新しい
「社会福祉協議会」の設立
を提案するが。

町長 高齢者の意見を配慮
しつつ取り組んでいきます。
今後も、町の「社会福祉協
議会」の存在意義を尊重し
ながら、支援を続けます。

健康福祉課長 町内には、
各区二十七ヶ所の簡易老人
憩いの家がありますので、
これらを充分に活用します。

質問 再度、現状の中央公
民館を完全に耐震化し、高
齢者を支援できる多機能設
備を備えた「南伊豆社会福
祉協議会」の拠点とするこ
とを提案するが。

町長 中央公民館は、解体
する方針で進んでいます。
今後の「南伊豆町社会福祉
協議会」のあり方としては、
中長期的な計画の中で、検
討していきたいと思います。



要もある。

町長 湯の花直売所で生産
者が集い、農林水産物の生
産意欲、品質の向上を図ら
れている。生産販売が観光
に結びついた一つの好事例。
今後さらに生産加工等の分
野の盛況が観光客の増加に
つながるといことで、新
商品の開発への支援も含め
て施策の展開を検討する。
職員派遣も考えていかなけ
ればと思っている。今後の
課題として取り組んでいく。

産業観光課長 内子町の成
功例を読ませていただいた。
ほかに今治市の成功例等読
ませていただき、すごいな
というのが感想。成功例の
記録を読ませていただくと、
やはりやる気かなというこ
とを感じる。



地震津波対策



横嶋 隆二 議員

質問 中央防災会議が25.3 m
という津波予想高を発表し、
沿岸地域に住む住民に大き
な不安、動揺が走った。津
波タワーの建設をどのよう
に考えるか。津波想定頻度
数により10 m、15 m程度の
避難タワーは、必要最小限
準備をすべき。津波に対し、
高い所だけでなく下に逃げ
る発想で、地下シェルター
や津波避難力プセルも検討
し、購入補助制度を設ける
べきだ。小・中学生に津波
ライフジャケットを貸与、
一般家庭への購入助成を提

案する。

町長 今後内閣府から発表
される10 mメッシュの津波
高・浸水域推計との整合性
を図り、事業着手したい。

防災室長 周囲に高台が無
く、短時間で避難が困難な
場所では、津波避難力プセル・
シェルターは有効な施策と
思われる。助成制度も含め、
調査研究を行う。津波ライ
フジャケットは、東日本大
震災以来多数の製品が開発・
販売された。静岡地震防災



教育長 こどもたちの安全
を確保一人も犠牲者を出さ
ず命を守る。学校現場を手
助けできるようさらに努め
こどもたちのために頑張る。

質問 小中学生の津波避難
の日常訓練と意識醸成に取
り組む姿勢は。

センターでも展示されてお
り大変重要と認識している。
児童生徒へのライフジャ
ケットは、整備手法を検討
する。自主防災会、区で購
入の場合3分の2を助成で
きるの、各区長に周知を
図る。

活気ある まちづくり

質問 総務省地域力創造ア
ドバイザー、金丸弘美さん
の講演で、観光地ではない
人口1万9千人の内子町に
は、100万人のお客さんが来
ている。湯の花が参考にし
た直売所「からり」は、60
万人73億の売上だ。内子町
は今もドイツに若者を送っ
ている。大山町農業組合は
人口が3千800人、世帯数が
1千7戸の町。町の70%が
山林。地域農産物の直売所
と地域食材を使ったレスト
ランがあり、年間16万人が
訪れる。この大山町農協が
大分市や福岡県に、「木の花
ガルテン」という農家レス
トランを8店出店し売上げ
は16億円、年間購買客は19
万人、市場出荷加工品製造
販売、きのこ栽培など農産
物を中心とした事業を含め
ると、56億円の売上げ。町
内の生産を高めることがお
客さんと呼ぶ力になると確
信している。地域の生産を
職員員外等に派遣をして学
ばせノウハウを蓄積する必



稲葉勝男 議員

風評被害への対策は

質問 東日本大震災から一年三ヶ月が経過したが、全国にさまざまな影響を及ぼしている。本町の基幹産業である観光に対する影響は非常に大きい。昨年の夏における観光客の入り込み状況は、前年比78%と大幅減の状況であった。三月末の内閣府発表による南海トラフ巨大地震の想定津波高は、下田市と南伊豆町が25.3メートルと驚くべき数値である。これによる風評被害の前兆が出ているが、被害対策についての考えは。

町長 夏のOWS国際大会の開催と同時に、会場周辺の活性化を図るためイベントの並列開催を企画しております。また、観光協会のジオパークビジターセンターの開設、インバウンド事業による誘客や、JR東日本旅客鉄道(株)の協力による伊勢海老号の運行などで誘客を図り、観光産業の支援を行っていきます。

質問 避難場所の設置や誘導、脱出方法など町民や観

光客の安全確保への取り組みをPRすることも風評被害対策と考えるが。

町長 国県の予想津波高等の発表を参考に、避難タワーの設置、避難路の確認と誘導、案内板の設置、そして宿泊施設や観光関連施設と連携をとり防災対策を進めていきます。

防災対策の進捗状況は

質問 南海トラフ巨大地震の津波高が公表され、24年度防災対策関連予算に変更は生じるのか、また湊地区に計画している避難タワーの設置は喫緊の課題であり、25.3メートルの津波高に捕われるより減災感覚で早急に対応できないのか。

防災室長 当初予算に変更はないが、今後防災対策の充実を図っていきます。

町長 避難場所、避難タワーの計画高については、地域の皆さまと十分に協議し対応していきます。



避難路等の設置や整備への補助は

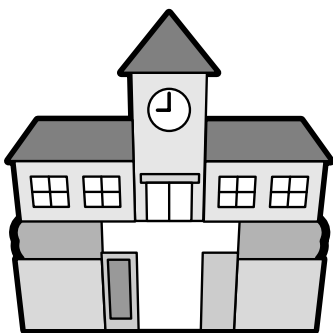
質問 自主防災組織が避難路などの設置や整備への補助、また、限界集落への人的補助についての考えは。

総務課長 避難路などへの補助は6月補正予算に計上してあります。高齢化の進んでいる集落には、34地区相互の応援協定と職員が地区担当で対応しております。

旧三坂保育所の再利用を

質問 認定こども園が開園したことにより、使用済の旧三坂保育所を解体する計画であるが、三坂地区は公的施設が存在せず過疎化が進む懸念から災害時の避難場所、工芸教室など木造校舎の利点を活かした再利用と、それに伴う耐震補強工事についての考えは。

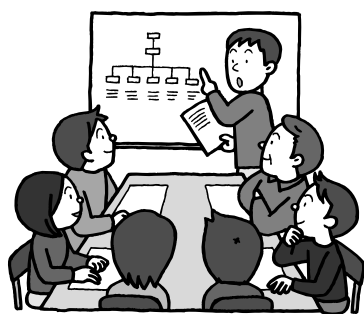
総務課長 築後50年経過しており、耐震性も無く安全が確保できないので解体を予定しております。解体後の土地については、周辺地域の要望、提案を取り入れながら町有施設跡地利用検討会議で検討していきます。



た。6市町の共有地でも町内の土地、町としての意向が一番強いという形を言わないと、他の町は地元が言わないと何もしない。

町長 まだ跡地利用委員会もなく、防災の発表もされる前でした。ある意味では考え方を絞り込んだの考えを申し上げた、あの発表がされて、限定をしていくことになる、いろいろな面で難しい、新しくスタートへ立って新しい考え方のもとに、跡地利用委員会や、皆さんとも話し合いをし、町の考えをまとめたい。

質問 町民は病院が移るけれども、あそこに医療福祉ゾーンができるんだから我慢し、町民は期待している面もある。



力が必須では。できる限り商工会等の関係団体とよく連携を図り、対策は考えていきたい。

質問 町内で起業、新規事業者、後継者のための町としての援助、利子補給、融資枠等、事業者に対して商工会等を通じて、新規事業者を町で応援する形を検討していただきたい。

町長 関係するそれぞれの担当課に命じて、そういう面の検討はさせたい。商工会等との各団体とも連携を図り検討してまいりたい。

道路問題

質問 南伊豆から町外へ、出る道は、基本的に国・県道が4本で、その県道も国道も途中で各1カ所にまとまってしまふ、下田も、駅前と一緒に、松崎で1つになる、町内から町外へ出る道は実質2本しかない。3本目の道が必要では。伊豆縦貫道のアクセスという形で、農道、林道ではなく、

湊病院の跡地利用

質問 共立病院の跡地はどうしていく予定なのか。

町長 医療福祉ゾーンであったりとか、選択肢の一つにはある、それらについては地元の代表や、跡地利用委員会で検討していく。

質問 1年以上前に町として医療福祉ゾーンとして考えている。という答弁があっ

町内経済の発展について

質問 町内の経済、生活している皆さんをどう活性化していくのか。

町長 非常に大きい問題で今基幹産業の観光サービス業を主体とした第3次産業が主流となっている。商業については予算でショッピングモール。それぞれの事業所で新商品開発等も伺っており、大いに販路の面で拡大をし、頑張っていたいただきたい。融資への利子助成、小口資金の資金貸し付け、各団体との連携を図り、個



清水清一 議員

別の事業推進には、できる限り考えていきたい。

質問 商工会員、観光協会員数も大分減って自営業者が少なくなってきた。事業所の減少をどのように対策しているのか。

町長 国の政策の中で大型店の出店等も非常に影響している。相当町外へ車で出かける傾向も見られ、従来と変わった客の流れが今ある。これらをいかに食いとめるか。それぞれの経営努

みなみいず元気ぴと



おととと劇団

私たち“おととと劇団”は保育関係の仕事をしているメンバーで結成され、現在16名で活動しています。主な活動は、町内の方を対象にした年1回の公演、その他老人施設の慰問や敬老会に参加しています。

昨年9月には、東日本大震災での被災地福島県南相馬市での公演も実現しました。どんな時でもすぐに話が進みまともになってしまうのがおととと劇団の良い所とも言えます。

おととと劇団のキャッチフレーズ『みんなの笑顔がキラキラ輝く!!』私たち団員一同、みなさんに笑顔で楽しんでもらえる様にこれからも活動していきたいと思っています。

議会一ロメモ

議決権

議決権は、議会の持つ権限の中で最も本質的、基本的なものであり、議会の存在目的からも第一にあげられる権限である。

議会は、町村長等の執行機関に対して、その町村の議事機関、意思決定機関として存在している。そして、現行地方自治法の建前では、条例、予算

は議会の議決を経ることを前提としているので、町村長が提案した案件に対して可否を表明することが議会の最も重要な使命であり、職責であるといえる。このような議会の意思決定が「議決」であり、議会の権限の中で最も本質的なものといわれるわけである。

議決は「問題」に対する議員個々の賛成・反対の意思表明、すなわち表決の集約である。

(議員必携より 長)

議会を聴きにきませんか

議会は町の予算や身近な問題などを話し合う大切な会議です。あなたも議会を傍聴してみませんか？

1年に4回の定例会が開かれます。

- 3月定例会 (新年度の町予算の審議が主です)
- 6月定例会 (町政の進捗状況などです)
- 9月定例会 (前年度の町会計の決算審議が主です)
- 12月定例会 (町事業の進捗状況の確認などです)

手続きは当日、住所、氏名等の記載で傍聴できます。午前9時30分から開会します。

●お問い合わせは議会事務局へ TEL 05558-621624



お詫びと訂正

平成24年5月15日発行No.49号の本文5ページと13ページに間違いがありましたのでお知らせいたします。

- 5ページ質問6、答えの部分
誤 3秒 正 30分
- 13ページ質問9・10答えの部分
誤 保健福祉課長 正 健康福祉課長



先日、ある民宿の玄関前に立った時「歓迎福沢諭吉 御一行様」と書かれているステッカーが貼られていた。冗談のつもりだろうが冗談に思えない。昨年の3・11内閣府発表の津波高25.3m 何かの呪縛に遭っている様だ。「備えあれば憂いなし」観光産業を始め、あらゆる産業は人命の安全を最優先に考えなければならぬ。ある地域では、行政・地区・住民が丸となって避難場所、避難路建設に汗を流している。町内全域が、「津波が来ても大丈夫です。」と自信を持って言える準備と行動が必要だ。

祈 千客萬来(宮)